法政大學 社会学部同窓会
同窓会会報
第23号

発行　法政大学
社会学部同窓会事務局
（月・水）
住所　〒194-0298
東京都町田市相原町4342
☎・FAX 042-783-2421

多摩キャンパス開設20周年
多彩な記念行事が推進
社会・経済学部卒業生のホームカミングデーも

さらなる発展の節目を 特色と役割をアピール
社会学部教授　須藤　春夫

来年は多摩キャンパスの開設20周年を迎える。この間に経済、社会の両学部に加えて現代福祉学部が新設され、さらに工学部の教養課程を学ぶ学生も加わって、法政大学の3キャンパス体制を名実ともに担う場に発展を遂げた。

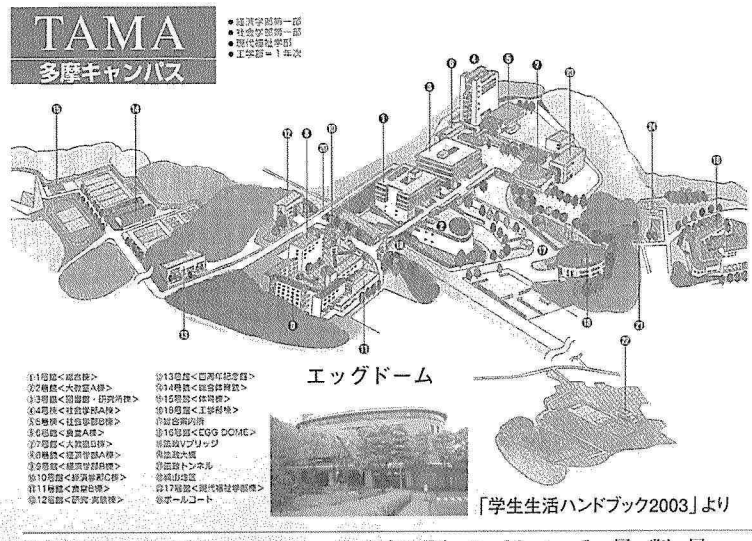
この節目の年を迎えるにあたり、大学主催の記念行事が企画され準備が進んでいる。開設20周年の記念行事コンセプトは、多摩キャンパスに蓄積された多様な教育・研究の成果を地域社会に向けて発信し、多摩になえようとすることにある。

シンポジウムを柱に発信 エンタテインメントも多彩

すでに3学部教授会と職員による記念行事推進の体制が発足しており、企画委員会案も提出されている。その内容は記念シンポジウムを柱に、教員や各研究所が進めてきた研究プロジェクトの成果を報告する学術面での行事と、多摩地域の郷土芸能鑑賞、法政OBプロスポーツマンによるスポーツ実技指導、学生参加による記念FMラジオ局の開設、そして毎年開催されている多摩音楽会や地域の子供たち対象のサッカー教室なども記念行事の一環として加えることで、エンタテインメントな要素も多彩に織り込む案となっている。

教授会と学部同窓会が連携

経済・社会学部卒業生のホームカミングデーもこの記念行事に組み込まれており、多くの卒業生が多摩キャンパスを訪れる魅力ある内容にすべく教授会と学部同窓会が力を合わせて取り組まれる。すでに企画委員会案は理事、多摩3学部長、多摩学生部長などで構成される推進委員会で具体化が図られており、社会学部からはシンポジウム実行委員に岡本、稲増両先生、ホームカミングデー委員に湯川先生が任命されている。



「学生生活ハンドブック2003」より

『普遍的価値の追求』を教育理念に
―多摩移転20周年を迎えるにあたって―
社会学部教授　石坂　悦男

多摩キャンパスに入ると前方に『宇宙の風』がゆっくりと廻っている。移転10周年を記念して建てた彫刻家・飯田善國氏の作になるステンレス製のモニュメントだ。

多摩移転直後の、他大学からの支援者も加わった移転反対運動の騒然たる状況とキャンパスづくり・学部教育への高揚。その前半10年の課題の一つは、大学「紛争」時からの懸案であった、学園から暴力を一掃し、言論・思想の自由と多様で自律的な学生生活を保障すること、所謂「学生問題」の解決のための取り組みであった。

これには今ではとても想像できない教職員の実に多くの労力と熱意と時間が費やされた。サークル活動の拠点『エッグ・ドーム』の開設（99年）はその所産の一つである。

もう一つは、学部棟など充実した建物・施設・設備のもとでの学部教育の新たな展開であり、人間・情報・国際・福祉・産業を対象にしたコース制や創意を結集したカリキュラムを他大学に先行して導入し、懸案だった学部一貫教育を実現することができた。（『多摩キャンパス10年史―白書―』参照）。

後半の10年は、学部にとって、大学紛争や移転時とはまた別の意味で大変な時期であった。

日本経済の長期不況と少子化の到来のもとで「大学の危機」が声高に叫ばれるなかで、大学「改革」として、学部・学科の新設や再編、経営の「効率化」、「競争原理の導入」、管理運営における学長・理事長への権限の集中等々が促進された。

こうしたなかで社会学部も応用経済学科を社会政策科学科に改組し（96年）、新たにメディア社会学科を設置（02年）した。また二部も3年次から就職活動を強いられ、広い視野から腰を据えた学問研究の場としての二部の存在意義が問われ、会的関心が狭く、勉学意欲に乏しい、将来の展望を見出せない学生が少なからずいる。また多くの学生が早くも3年次から就職活動を強いられ、広い視野から腰を据えた学問研究の場としての二部の存在意義が問われ、社